

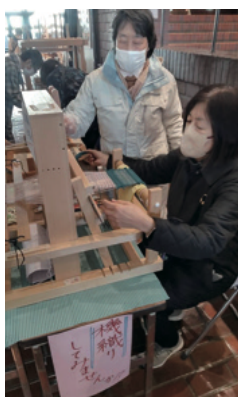
第 25 回狭山市民芸術祭開催さる

令和 7 年 2 月 18 日（火）から 23 日（日）まで、狭山市市民会館を会場に狭山市文化団体連合会設立 25 周年記念 第 25 回狭山市民芸術祭を開催しました。今年は、テーマを「咲かせよう狭山の文化」とし、企画公演として、音楽公演「世界の珍しい楽器がやってくる!」を開催。天候にも恵まれ、多くの来場者にお楽しみいただきました。

加盟団体の狭山市美術家協会・狭山市民美術協会・狂言入間川を観る会による作品展示では、絵画・版画・彫刻・工芸・書・写真・手工芸の各ジャンルで大作や已年に因んだ手工芸品など見応えのある作品が並べられ、訪れたお客様の目を惹いていました。



22 日（土）・23 日（日）には、狭山市いけばな連盟による、「春爛漫」と題したお迎え花が会館入口のロビーに飾られ、お客様をお迎えしました。また 22 日（土）の茶席では、狭山市茶道連盟のお手前で、ゆっくりと 10 席 73 名の方にお茶とお菓子を味わっていただきました。



展示部門全体では、延べ 1,893 人の来場者がありました。

大ホールロビーでは特別展示として「狭山にゆかりのある文化人」展示が行われました。プロジェクトメンバーが故人および現役で活躍されている文化人を取材し、その経歴や狭山市との関わり等をパネルにて紹介しました。また、狭山遊系会によって行われた「広瀬斜子織」の復元資料展示と実演・体験では、多くの来場者が興味を持って観覧して下さり、熱心に織機体験や質問をされていました。



22 日（土）小ホールでの舞台発表「世代を超えて」では加盟 11 団体による舞踊・フラダンス・ジャズダンス・邦楽演奏・オカリナ演奏・放送劇・演劇が華やかに、また情感豊かに行われました。今回は青少年文化体験フェスタ児童による「お箏」の発表もあり、延べ 225 名の来場者にお楽しみいただきました。

23 日（日）中ホールでの音楽公演「世界の珍しい楽器がやってくる!」では、第一部のインドネシア竹製民族楽器アングルンの爽やかなアンサンブル、可憐な音色のチター合奏、スコットランドのグレートハイランド・バグパイプスのダイナミックな演奏があり、そして第 2 部ではカテリーナ古楽合奏団による中世・ルネッサンス音楽会で、どこか懐かしさを感じる癒しの音楽を存分にお楽しみいただけたことと思います。どのグループも楽器の説明を交えての



演奏で、400 名を超える観客の皆様には「世界の珍しい楽器」に親しみを感じていただけたことでしょう。

ご来場くださった皆様、出展・出演していただいた皆様、そしてスタッフの皆様、大変ありがとうございました。

第 25 回狭山市民芸術祭 実行委員長 小川忠史